



＜海外＞

・米国・環境保護庁 (EPA) : 2006年、PFOA、PFOA類縁物質、および前駆物質PFOAFの環境中への排出削減と製品中の含有量削減について、自主削減計画「PFOA Stewardship Program (PFOA スチュワードシッププログラム)」(基準年・2000年対比で、2010年までに95%削減、2015年に全廃する)が提案された。また、代替物質の開発について、パーフルオロオクタン酸(PFOA, C8-acid)よりも、パーフルオロヘキサン酸(PFHxA, C6-acid)のほうが、生物学的半減期が短く、90日反復投与毒性・発がん性・生殖発生毒性等の生物試験において低毒性であることが確認できたことから、代替物質として「PFHxA(C6-acid)」など、主要な代替物質としてC6化合物を開発することがEPAなどによってサポートされている。

□ 8 ページ

No. 14 PCB

—「危害要因に関する概要等」の毒性に関する記述に、追加—

・PCBの毒性のうち、発がん性、催奇形性はダイオキシン類(ポリクロロジベンゾダイオキシン、ポリクロロジベンゾフラン)に似ているため、WHOにより、12種の異性体が「ダイオキシン様PCB(dioxin-like PCB, DL-PCB)」と呼ばれ、ダイオキシン類に加えられている(毒性の強弱は数桁の差がある)。PCBによるの大半がダイオキシン様PCBによるものである。ダイオキシン様毒性が特に強いのが、「コプラナーPCB(coplanar-PCB, Co-PCB)」で、置換する塩素の位置によりビフェニル構造が共平面構造(コプラナリティ)を取っているPCBである。

□ 10 ページ

No. 19 かび毒 アフラトキシン類

・世界保健機関(WHO):「WHO FOOD ADDITIVES SERIES: 47, Safety evaluation of certain mycotoxins in food」(2001) アフラトキシンM1、デオキシニバレノール、フモニシン、T-2

JECFA 第56回セッション会合(2001年)

□ 27 ページ

No. 27 その他

国内

2006年原子力委員会食品照射専門部会では、食品照射に関する内外の動向、有用性や安全性に関する報告書「食品への放射線照射について」を公表